

2030年代将来計画検討
ワーキンググループ(2030WG)
活動報告

大内 正己
東大 宇宙線研

メンバー

- 秋山正幸
 - 大内正己
 - 鈴木尚孝
 - 住貴宏
 - 左近樹(8/8より)、
 - 津村耕司
 - 長尾透
 - 深川美里
 - 松尾太郎
 - 松田有一
 - 山田亨
- 和田武彦(運営委員会からのオブザーバー)

活動

- 第1回ミーティング (zoom) : 6/25
- 第2回ミーティング (御茶ノ水) : 8/27-28
- (予定) 第3回ミーティング (日本橋) : 11/19

議論内容(抜粋)

- キーサイエンスとキーテクノロジー → プロジェクトのまとめ
- decadal surveyと日本の将来計画の関係
- 日本で超大型計画(2千億円)が行えない制度と現状
- 日本ではコストエスティメイトが難しい(特にスペースミッション)
- NASAプロジェクトと比べて
 - 日本では、大型計画に対して、初期からコミュニティー全体が本気で議論していない
 - プロジェクトのメンバー確保も難しい
- どうやって複数プロジェクトの中から選択していくべきなのか？
 - SPICAとWISHの議論を振り返って

今後の方向性

- white paperの作成
 - 多分野におよぶ大きなチーム作りを促進
 - コミュニティーで建設的なreviewと再提出。数年で複数回→計画を強める。
 - 各人が複数チームに協力
 - 自身のサイエンスと提案計画の関係を理解
 - 最終的に1つを選ぶ際でも、特定研究分野が全て失われるべきでない
 - 光赤天連シンポジウム(9/10-12)
 - 2年後のdecadal survey結果に間に合うよう進められると良い
- 皆さんからの声→お近くの2030WGメンバーまで